

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト (JICA/DPUB)

ニュースレター第34号 2020.04

DPUBオンライン障害勉強会の開催

DPUBでは、2017年10月から障害勉強会と題し、毎月1回勉強会を実施してきました。毎回50名近い人が参加し、大変盛況でしたが、新型コロナウイルスの影響で今年は実施できておりません。しかし、なんとか勉強会を実施できないかと考えた結果、オンラインで実施することとなりました。

対象者：勉強会参加者、障害者、関係者など、どなたでも。地方、女性、日本からの参加は大歓迎します。

目的と意義：モンゴルにおける障害分野の課題と取組、JICAの障害分野の取り組みを伝え、障害者の社会参加を促進する。

日程：毎週火曜日と木曜日の週2回。初回を4月7日（火）

時間：午後2時から3時の1時間（日本時間3時から4時）

方法：オンラインによる講義と質疑応答（メッセージの受付）

DPUB FacebookLive

YouTube（JICAモンゴル<https://www.youtube.com/user/JICAamongolia>）に講義を保存

講師：JICA専門家・千葉寿夫 ＊ゲスト招待もあり

使用言語：日本語、モンゴル語、モンゴル語手話

皆様、ぜひ奮ってご参加ください。

研修3日目は、新宿区勤労者・仕事支援センターを訪問し、実際に障害者にどのようなサービスが提供されているか視察しました。就労継続支援AとB、また就労移行支援について、どんな作業や研修を実施しているのか、軽作業、IT、清掃作業などがありました。国で定められた事業、新宿区として独自に実施している事業など、法律で定められている以上の活動を地方自治体が自ら実施していることは、印象的だったと思います。



視察の様子

午後、東京国際空港（羽田空港）を視察しました。本空港の特に国際ターミナルは物理的なバリアフリーだけでなく、ソフト支援も充実しています。多機能トイレ、タブレットを使った手話通訳、多言語サービス、車椅子の移動サービスなどなど、モンゴル新空港にもぜひ活用頂きたいサービスが沢山ありました。研修生一同、新空港に対する期待が高くなったようです。(2020.01.20)

本邦研修がスタート！

「障害者権利法実施促進のためのNGO行政連携強化」研修が、JICA東京で今日から実施されています。まずはオリエンテーション、皆さん、まだ真剣です（すみません、ずっと真剣ですね）



今回は、行政機関から5名、NGOから6名が参加し、日本の社会保障制度とその実施方法を学び、その中でNGOと行政がどのように連携しているのかを学びモンゴルに持ち帰ります。

これから毎日研修レポートを日本からアップしますので、楽しみにしてください。(2020.01.15)



研修員の皆さん

最新情報については、以下のページからご覧ください。

<https://www.facebook.com/jicadpub>

研修も6日目、今日は、日本の自立生活センターの代表的存在であるヒューマンケア協会を訪問しました。午前中は中西代表から、センターの設立経緯や自立生活運動の歴史、障害者リーダーとしての活動など、力強いプレゼンテーションをお聞きしました。日本だけでなくアジアにも自立生活センターを広げてきた中西代表の活動や経験は、モンゴル研修生にとってとても刺激的だったようです。また障害者の自立に必要な介助者制度や政府からの補助金など、今後のモンゴル



に必要な活動を研修生に伝えていました。午後は、センターを利用している内山さんの自宅に訪

問させて頂き、障害者の自立生活の現場を拝見させて頂きました。施設生活から地域での一人暮らしを決心するまで2年かかったと言うお話は印象的で、地域生活に移行するにはまだまだ様々な課題があることも実感できました。ただ、自立生活に移行してからの生活はとても充実しているようで、いきいきと活動し仕事している内山さんの姿は、モンゴル研修生に感動すら与えたと思います。(2020.01.23)



本邦研修も最終日。最後は、参加者から研修報告をして頂きます。テーマは3つ、①就労支援、②障害者福祉サービス、③自立生活です。3グループに分かれ、①研修から学んだこと、②モンゴルの課題、③今後の対策と行動について報告します。どのグループも昨日から議論を重ね。モンゴルにあるもの、足りないもの、今後必要なものなどを話し合い準備してきました。

報告後は、JICA本部担当者から質問を受け、その後様々な意見交換をしました。皆さんの報告を聞いて、今回、研修が実施できてよかったと改めて思いました。(2020.01.27)

新たな進路



千葉チーフアドバイザー

日本財団には5年務めました。そのとき、改めて自分の進路を考えました。すでに42才。このまま日本財団に残るのか、それとも他のことをするのか。タイでJICA専門家をしたときに、実力が足りず失敗したのはお話しとおりでありますが、その経験から、日本財団に務めながら修士課程にも在籍していました。それが日本福祉大学です。オンラインで受講でき、登校するのは年に数回だけ。なので社会人にぴったりの大学でした。国際社会開発研究科に所属し、改めて途上国の障害者福祉について勉強しました。修士論文は「タイにおける障害者運動の展開」です。論文のテーマがなかなか決まらず、2年では卒業できないと思われていましたが、ギリギリになって現地調査も行い、徹夜で論文を仕上げた結果、なんとか2つ目の修士を取得することができました。そしてこの経験が、博士課程への意欲を掻き立てました。

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com